

神奈川県水産技術センターメルマガ 236-243

- | | | |
|-------|----------------------------|-----|
| no236 | 2008年3月7日 | P1 |
| | 怪鳥・カワウの季節 | |
| | 「湘南シラス」という地域団体商標登録を目指しています | |
| no237 | 2008年3月14日 | P6 |
| | メルマガ本「三浦半島のおさかな雑学」の発行について | |
| | 「さかなグッズ」コレクション（その14）雑もの5 | |
| no238 | 2008年3月21日 | P24 |
| | 漁業者と共同で行った試験について | |
| | 漁業者グループの紹介（その3） | |
| no239 | 2008年3月28日 | P27 |
| | ホシガレイの話2 | |
| | ケータイ海況図ものがたり | |
| no240 | 2008年4月4日 | P30 |
| | 所長就任にあたって | |
| | あなご学うんちく（7） | |
| no241 | 2008年4月11日 | P32 |
| | 幼稚園のサザエ放流 | |
| | ナゾノブッタイ | |
| no242 | 2008年4月18日 | P37 |
| | 近所の雑木林との惜別 | |
| | 2008年4月8日の低気圧による定置網被害の状況 | |
| no243 | 2008年4月25日 | P42 |
| | 増水は要注意！その2 | |
| | 秋谷沿岸漁業研究会の紹介 | |

神奈川県水産技術センター メールマガ236

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.236 2008-03-07

-- Fish-mag >°)))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.236 2008-03-07

~~~~~

## □研究員コラム

○怪鳥・カワウの季節 (内水面試験場 勝呂 尚之)

○「湘南シラス」という地域団体商標登録を目指しています (相模湾試験場 櫻井 繁)

## ○怪鳥・カワウの季節

毎年、今の時期、川や湖に飛来する怪しい黒い鳥の集団を見かけたことはありませんか？ 魚を飽食する鳥・・・カワウです [\(写真1\)](#)。

一時期は絶滅が心配されるほど減少しましたが、1990年代後半から各地で復活し、多い年では推定飛来数が相模川では10万羽、酒匂川では2万羽を超え、漁業者や釣り人の大きな悩みのひとつになっています。

カワウは水中に潜って魚を採りますが、これが実に巧みで、集団で魚を追い詰めて捕食します。試験場の調査では、一羽のカワウから、なんと120尾！のアユが出てきたことがあります。

漁業協同組合の皆さんも必死です。自分達が手塩にかけて育てた魚を、目の前でパクパクやられるのですから・・・もちろん黙って見ているわけではありません。銃器による追い払い、案山子、花火、テグス張りなどの対策を講じています。

しかし、決定打となる防除法は見つかっておらず、アユの産卵場や魚が採られやすい魚道などをピンポイントで守るしか手はないようです。新たな試みとしてノリ網による防除を今年度から実施しました。

アユの産卵場にノリ養殖で使用する網(3.6m×40m)をいかだ状にして浮遊させたところ、付近にはカワウは全く飛来しなかったため、関係者の期待が高まっています。

このカワウ問題ですが、原因は複雑で、根は深いところにあるようです。最近では、水源がダメになり、しかも上水、発電、農業など、多くの水が利用されるので、川を流れる水の量が減っています。そのため、川は浅くて単調な構造へと変化しました。

さらに、河川改修工事が追い討ちをかけ、魚の逃げ場のない、カワウが魚を食べやすい川になっています。また、爬虫類や哺乳類等、カワウの天敵となる生物も減り、結局のところ、自然の生態系のバランスが崩れた結果、カワウが増えてしまったと言えそうです。

## ○「湘南シラス」という地域団体商標登録を目指しています

シラスは、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシの3種類の稚魚の総称です。県内で獲れるシラスは、そのほとんどがカタクチイワシです。

そのシラスを獲る漁法は、シラス船曳き網漁業という方法で、シラスを見つけるとその群れを取り囲むように網を入れ、その網をゆっくり曳くことで、シラスの群れを網で獲りますが、網の構造は、先端に袋状の袋網があり、その両端に身網、その先に荒手網、ロープとなっており、荒手網がシラス以外の魚を逃がし、シラスしか袋網に入らないようになっています。

県内では、横須賀市長井から小田原までの相模湾沿岸が漁場になっており、シラス漁業者は自ら獲ったものをその日のうちに自分達で加工し販売までを一貫して行なっています。鮮度が良いうちに、釜揚げシラスやタタマイワシなどに加工するため、購入者から味が良いと評判です。

また、加工する時も塩以外の添加物は使用していませんので、安心安全です。

近年、この釜揚げシラスは味が良いということから、湘南のシラスとして人気がありますが、近年、他県産の偽物が出始めたことから、本当の湘南シラスを味わって頂くため、シラス漁業者が組合員になっている漁業協同組合の連盟で、「湘南シラス」という地域団体商標登録を取得することになりました。

消費者の皆さんが購入する際、この商標が安全、安心、おいしさの目印となると思います。

[写真はこちらから](#)

---

- 水技Cメールマガジン（毎週金曜日発行）
- メルマガの配信の変更、解除、ご意見やお問い合わせはこちらの[メルマガお問い合わせフォーム](#)からお願いいたします。

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会

住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話：046(882)2311

---

[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン236-1

怪鳥・カワウの季節



写真1 集団で飛来するカワウ・相模原貯水池

[記事に戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン236-2

「湘南シラス」という地域団体商標登録を目指しています



シラス船曳網の操業 1



シラス船曳網の操業 2



釜揚げシラス 1



釜揚げシラス 2



タタミイワシ

[記事に戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メルマガ237

神奈川県水産技術センターメルマガ VOL.237 2008-03-14

-- Fish-mag >° )))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.237 2008-03-14

~~~~~

□ 研究員コラム

○メルマガ本「三浦半島のおさかな雑学」の発行について (栽培技術部長 武富 正和)

○「さかなグッズ」コレクション(その14) 雑もの5 (管理部 亀井 正法)

○メルマガ本「三浦半島のおさかな雑学」の発行について

水産技術センターのメルマガは230号を超え、皆様に当センターの職員が普段感じている神奈川の海や魚に纏わる事柄を数多くお送りしてまいりました。

このたび、同じ神奈川県の間関である横須賀三浦地域県政総合センターから「このメルマガを本にしてみませんか？」という申し出がございました。

これまで横須賀三浦地域県政総合センター等では、「おかみさんレシピ」、「三浦半島」、「とっておきの三浦半島」などの冊子を発行し、三浦半島の農業や歴史・文化について紹介してきましたが、三浦半島の漁業を紹介するものはまだなく、このメルマガを冊子にすることで自然豊かな三浦半島の新しいイメージづくりに貢献できると判断し、発行を企画したとのことです。

そこで、これまでのメルマガから県民の皆さんに興味・関心を持っていただけそうな65編のテーマを選び出し、冊子「三浦半島のおさかな雑学」として発行する運びとなりました。

この3月下旬には一般書店に並ぶ予定ですので、是非一度、冊子になったメルマガを手にとってご覧いただきたいと思えます。

◆ 『三浦半島のおさかな雑学』

東宣出版 四六版 140ページ 定価1,050円(税込)

並製本 カラーカバー 本文単色

(企画) 神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター

(編集) 神奈川県水産技術センター

○「さかなグッズ」コレクション(その14) 雑もの5

今回は、前回の布製品の範ちゅうで紹介し切れなかったもの、衣類、帽子、あるいは布団カバー、座布団カバー、マットなどを紹介します。衣類、帽子など身に着けるグッズは、ネクタイの項で書いたように、いざ着るとなると、なかなか勇気がいるものであります。

つまり、コレクターとしては、そのようなグッズを見つければデザイン、色彩、センスなど、自分に似合う似合わないに関係なく、喜んで購入します。後日、日用品であるがゆえ、身に着ける段になって考え込んでしまうのです。

鏡を見ながら「いくらなんでもカッコ悪くないか?」、「いい歳して人中を歩けないよ?」と躊躇するのが常です。そして、またまた、筆筒の肥やしになってしまうのです。

けど、こんな場合もあります。過日、私の誕生日(9月1日)祝いに息子夫婦から半袖シャツと手拭いの揃いをプレゼントされました。それは木綿で白地に紫と黒のフグ柄が描かれており、デザイン的にも洒落ていて「最近に無い掘り出しものだ。よく見つけたなア、これなら着て歩けるわい」と、感激し大満足したものでした。

気に入った逸品であるから、普段着として家で着て、そのまま着晒しになっては、もったいないし・・・、それに我が家の中では誰の目にも付かないし・・・、せっかく頂いたものだから今度、息子宅に行く時に初めて袖を通すことにするか・・・、と思案しているうちに一ヶ月も経ち、10月になってしまい、もう半袖の季節ではなく、機会を逸してしまったことがありました。

そのフグ紋様の半袖と手拭いの揃いは、箆笥の肥やしではなく、来年の夏こそはと、今でもサラのままハンガーに掛かって出番を待っています。

[さかなグッズの写真はこちらから](#)

- 水技Cメールマガジン（毎週金曜日発行）
- メルマガの配信の変更、解除、ご意見やお問い合わせはこちらの[メルマガお問い合わせフォーム](#)からお願いいたします。

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子
電話：046(882)2311

[メルマガTOPへ](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガジン237 / 亀井「さかなグッズ」コレクション (14) : 雑もの-5 (マット・衣類・帽子)

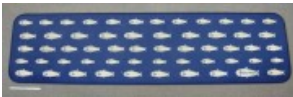
亀井「さかなグッズ」コレクション (14) : 雑もの-5 (マット・衣類・帽子)

コレクションの記事一覧

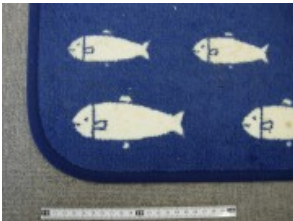
クリックすると拡大した画像が表示されます。(画像は直接表示しますので、戻る際はブラウザの戻るボタン等を使ってください。)



[半袖シャツと手拭い「最近に無い掘り出しものだ。よく見つけたなあ・・・\(本文より\)」](#)



[マット1](#)



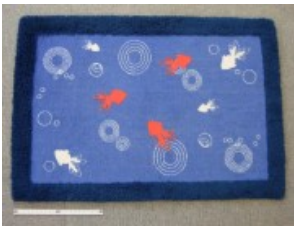
[マット1\(拡大図\)](#)



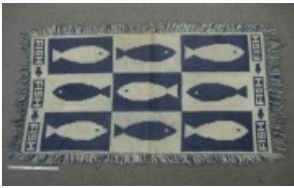
[マット2](#)



[マット3](#)



マット4



マット5



マット5



座布団1



座布団2



座布団3



座布団4



座布団 4(拡大図)



椅子座布団



布団カバーと枕カバー



布団カバーと枕カバー(拡大図)



エプロン



半袖シャツ



半袖シャツと手拭い



Tシャツ 1



Tシャツ 2



Tシャツ 3



Tシャツ 4



Tシャツ 4(絵柄)



Tシャツ 5



Tシャツ 6



Tシャツ 6(絵柄)



Tシャツ 7



Tシャツ 7(絵柄)



Tシャツ 8



Tシャツ 9



Tシャツ 9(背面)



帽子 1



帽子 1



帽子 2



帽子 3



くつした



[ハンカチ 追加1](#)



[ハンカチ 追加2](#)



[手拭い 追加1](#)



[手拭い 追加1\(拡大図\)](#)



[手拭い 追加2](#)



[手拭い 追加2\(拡大図\)](#)



[暖簾 追加1](#)

[ページ先頭へ戻る](#)

[記事へ戻る](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガジン237 / 亀井「さかなグッズ」コレクション (14) : 雑もの-5 (マット・衣類・帽子)

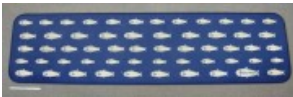
亀井「さかなグッズ」コレクション (14) : 雑もの-5 (マット・衣類・帽子)

コレクションの記事一覧

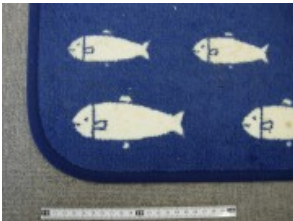
クリックすると拡大した画像が表示されます。(画像は直接表示しますので、戻る際はブラウザの戻るボタン等を使ってください。)



[半袖シャツと手拭い「最近に無い掘り出しものだ。よく見つけたなあ・・・\(本文より\)」](#)



[マット1](#)



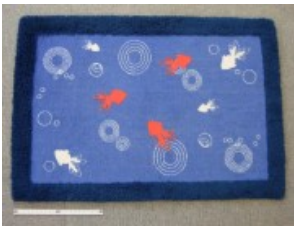
[マット1\(拡大図\)](#)



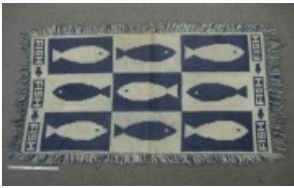
[マット2](#)



[マット3](#)



マット4



マット5



マット5



座布団1



座布団2



座布団3



座布団4



座布団 4(拡大図)



椅子座布団



布団カバーと枕カバー



布団カバーと枕カバー(拡大図)



エプロン



半袖シャツ



半袖シャツと手拭い



Tシャツ 1



Tシャツ 2



Tシャツ 3



Tシャツ 4



Tシャツ 4(絵柄)



Tシャツ 5



Tシャツ 6



Tシャツ 6(絵柄)



Tシャツ 7



Tシャツ 7(絵柄)



Tシャツ 8



Tシャツ 9



Tシャツ 9(背面)



帽子 1



帽子 1



帽子 2



帽子 3



くつした



[ハンカチ 追加1](#)



[ハンカチ 追加2](#)



[手拭い 追加1](#)



[手拭い 追加1\(拡大図\)](#)



[手拭い 追加2](#)



[手拭い 追加2\(拡大図\)](#)



[暖簾 追加1](#)

[ページ先頭へ戻る](#)

[記事へ戻る](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガ238

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.238 2008-03-21

-- Fish-mag >°)))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.238 2008-03-21

~~~~~

## □研究員コラム

○漁業者と共同で行った試験について (内水面試験場長 水津 敏博)

○漁業者グループの紹介 (その3) (相模湾試験場 中川 研)

○漁業者と共同で行った試験について

3月は、卒業式や会社の決算など忙しく過ぎてしまいますが、皆様はいかがでしょう。

試験場も同様で、研究員は一年間の成果報告書の作成、各種会議への出席、関係者との打ち合わせなど、この月を乗り切るために頑張っています。

今年の仕事で新しいアユの調査を行いました。2月から3月にかけてこの結果を漁業者の方々などに報告しています。この調査は人工産アユ種苗が天然に比べて弱いのではないかと漁業者からの疑問に応えるため、標識放流試験などを漁業者と一緒に行いました。

標識を付け放流した人工産アユは、再捕結果もあり放流効果の確認ができたのでほっとしているところです。この調査や報告会を通じて感じたことは、漁業者の関心が非常に高かったことです。

これは、試験の計画作りから標識付け、現地での再捕（釣り）など漁業者と一緒にやって行ったためであると思っています。

報告会では漁業者が自分の意見を述べたり、次の試験の方法を提案したりと盛り上がりました。今後は、出された意見などを参考にして次年度の計画を作り、漁業者と一緒にやって仕事をしていきたいと考えています。

試験場の仕事は、現場のニーズを把握しそれに応えることが大切ですが、現場の方々と一緒に取組むことは研究員の刺激にもなり、試験研究を進めていく上で効果的な方法であると思いました。

現在までの試験場のデータによると、本年の天然アユは良い状況にあります。人工アユも天然アユも沢山釣れることを期待しています。

○漁業者グループの紹介 (その3)

今回は、小田原市漁業協同組合青年部の取り組みについて紹介させていただきます。

小田原市漁業協同組合青年部は、平成5年に小田原市漁協の設立で創部されました。青年部の構成員は、現在、20名で定置網や刺網を営む漁業者の他、遊漁船の船頭もおり、同じ漁業でも操業形態の異なる人たちで構成されています。

青年部では、後継者を育てるという観点から小田原の伝統漁でもある「スミヤキ漁」を若い漁業者に教える「一本釣り漁業研修」等も行なわれ、先輩から後輩へ技術を伝える役目も果たしてきました。また、魚価を向上させる取組として「鮮度保持」の試験も実施し、活け締めによる鮮度保持の効果を身を持って体験し、その活動の集大成として「活け締めマニュアル」を作成しております。

現在は、森と海との繋がりを意識し、山林の荒廃で問題となっている間伐材を用いて、魚礁を作成・設置する試験を実施しています。初年度は、アオリイカの産卵礁も兼ねた魚礁を作成し、山林保全とあわせ資源も増殖もさせる目的で実施しましたが、残念ながらアオリイカの産卵は行なわれませんでした。

しかし、相模湾試験場の研究員の協力で実施した潜水調査では、幼稚仔魚の群れが多く確認され、間伐材の魚礁が稚魚等の育成場になっていることがわかりました。

そこで、2年目は、設置期間を2年として、魚礁を作成し、設置しました。魚礁としての効果は、潜水調査や釣獲調査の結果では、カンパチ、カワハギやコシヨウダイ等の幼魚の群れが確認され、有用魚種の育成場としての効果が確認されています。また、アオリイカやカワハギ等が多く釣獲され、魚礁（漁場）としての効果も確認されています。

話は、飛びますが、魚礁に用いた間伐材は、小田原市の江之浦生産森林組合所有の山林で間伐作業の研修、体験を行い、わけていただいた間伐材を使用しています。製材ではなく、間伐した木そのものを用いて、漁業者でも簡単に作成できる立木型の魚礁としております。

間伐体験もそうですが、魚礁の作成時、設置時や撤去時及び調査時も部員が集まり、皆で作業することにより親睦も深まっていく効果もあります。魚礁作成などでは、縄の結び方などの技術の伝承にも役立っております。

青年部としての活動は、他に先進地視察や研修会の開催などを実施し、今後の漁業のにない手としての研鑽も深めています。

今回は、小田原市漁業協同組合青年部の取り組みについて、簡単に紹介させていただきました。我々普及指導員は、今回の青年部活動のようなグループ活動に対しても応援、サポートをさせていただいています。また、このような漁業者グループの活動について、もっと皆様に知ってもらい、神奈川県漁業についてもっと深く理解していただけたらと思っています。

[写真はこちらから](#)

- 
- 水技Cメールマガジン（毎週金曜日発行）
  - メルマガの配信の変更、解除、ご意見やお問い合わせはこちらの[メルマガお問い合わせフォーム](#)からお願いいたします。

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会  
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子  
電話：046(882)2311

---

[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン238

漁業者グループの紹介（その3）



写真1：間伐材魚礁の設置作業



写真2：魚礁に蛸集したコシヨウダイの幼魚

[記事に戻る](#)

**神奈川県**

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メルマガ239

神奈川県水産技術センターメルマガ VOL.239 2008-03-28

-- Fish-mag >° )))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.239 2008-03-28

~~~~~

□研究員コラム

○ホシガレイの話2 (栽培技術部 原田 穰)

○ケータイ海況図ものがたり (資源環境部 樋田 史郎)

○ホシガレイの話2

以前、何回か取り上げたホシガレイですが、当センターでは種苗生産・放流のほか、自家採卵をするための親魚の養成も行っています。

当センターで生産しているホシガレイの種苗は、ほとんど他の種苗生産機関から受精卵を分けてもらって作っています。全国的にみても、ホシガレイの種苗生産はまだ不安定で、特に100%人工的に養成した親魚から採卵し、安定的に大量生産できている機関はあまりありません。

また、自然界で成熟・抱卵している親魚から採卵して、安定的に種苗生産することは可能になりましたが、海で漁獲した魚を使うということで、毎年必要な数を調達できなかつたり、病気をもち込んだりする心配もあります。特に、本県では周辺海域でホシガレイがほとんど漁獲されなくなってしまう、人工養成の親魚から採卵する技術の開発が求められています。

ただ、当センターでは、親魚養成に関して次のような大きな2つの問題があり、これまでなかなか思うような成果を出せませんでした。第1に、施設上の制約です。当センターには、種苗生産を前提とした親魚養成施設がありません。第2に、当センターの地先の水温が、特に夏期に高温になりすぎ、ホシガレイがダメージを受けて斃死しやすいことです。

第1の問題点については簡単に解決できる方法はありませんので、第2の問題点について技術的に対処できるかを探りました。まず、ストックできる親魚の数が少ないので、とにかく死なせないことを考えました。死なせないためには、クーラーを入れて、飼育水を冷却すればいいのですが、それだと電気代がかかりすぎてしまいます。

また、斃死の原因は高水温だけとはどうも考えられなかったので、視点を変えて、飼育環境を改変するのではなく、魚自身を丈夫にすることとしました。

そこで、栄養強化のために与える餌の工夫などをしたところ、効果はてき面に現れ、2006年に45%だった夏期の成魚の生残率が、2007年には91%にまで改善されました。

また、「夏の激ヤセ」を体質強化で防止できたおかげで、体力が温存され、今年の採卵シーズン(2-3月)には、当センターでは初めて、養成親魚から何回も採卵することが可能になりました。採卵の詳細については、また次の機会にお伝えします。

○ケータイ海況図ものがたり

海況情報をご利用くださりありがとうございます。

当所ではホームページを通じて海況情報を皆様にお知らせしていますが、神奈川の沿岸漁船は、洋上でインターネットを閲覧できず、また、泊まりがけで出漁する漁船もあることから、携帯電話での情報提供に力を入れてきました。

ケータイ海況図を開発した当初(2003年)には、携帯電話は表示能力が小さい機種が多数だったものの、大きい画面の機種が普及しはじめた時期で、使い物になる画像の大きさを模索する必要がありました。大手の携帯電話通信事業者の公式見解は、非常に小さな画像しか保証しないということであり、実用的な仕様の決定には参考になりませんでした。

結局、先に公開していた「リアルタイム海況データ」の利用状況から、画像の大きさを検討しました。

ほとんどの利用者が閲覧可能な大きさは、シェア第2位以下の会社の携帯電話への対応で「共通のページを作って電話会社の機能で変換してもらう」という普通の方法では、変換の際に処理してくれないという問題が発生する大きさでした。

そこで、各社に合わせて全く違う技術のページを用意することにしました。それで当初に目処が立ってすぐに公開するつもりでしたが、互換性の確認してから公開せよという判断が下されました。現実には、複数の電話会社と多数の機種があり確認できず、試行と言う形で漁業者に閲覧いただいて互換性の確認をすることにしました。

互換性に関するクレームが無かったため2005年に正式公開となりましたが、開発した本人としてはあまりに遅きに失した感で一杯でプレス発表等は行ないませんでした。

また、この辺の開発の顛末は論文にまとめましたが、実はその時点で時代遅れの情報でした。開発してから年月を経て、携帯機種の事情はだいぶ変わってきました。

そこで、先日、2007年の1年間のデータを対象に利用状況の解析をしました。結果は、横方向で230画素表示できる機種が96%を占めており、160以上であれば99%を超えていました。これまで表示能力の限られた機種への対応で画像が大きくできなかった足かせが1段外せることとなりました。

そこで、今までの冒険的な大画像を標準サイズとし、新たな大画像は現行多数の機種の画面の横幅に合わせて改めました。縦形の画像で画面一杯にする選択肢もありますが、大きくすると電話代が高むので今後の課題としました。

また、HDMLと言う技術が必要な端末の利用は、1年間に4件あるだけでした。予想はしていましたが、複雑な技術が必要で開発に苦労した HDMLはもう完全に思い出の世界に行っておりました(来年度にはHDML版の正式な廃止も要検討か)。

海況図は、手描きの図なので、スキャナで取り込んで縮小します。そのため自由な伸び縮みができない画像にせざるを得ませんでした。

図の作成過程をすべてコンピュータを使えばどんな端末に対しても伸縮可能なサービスを提供できる可能性があります。4月から公開する新しい海況図は、平成17-19年度の3年間に6都県と大学の共同の研究プロジェクトで開発し、コンピュータで清書するようになりました。

伸縮可能な画像については強く主張したものの、対応不可能な技術開発が決定されてしまい、理想には手が届きませんでした。しかし、カラーの図が出せるようになったので、以前より使い易くなったのではないのでしょうか。

※ケータイ海況図

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/k/k.asp>

※ケータイ海況図のご案内(PC向け)

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/k/Guide.asp>

※参考論文:携帯電話対応の海況図生成システムの開発(pdf,2MB)

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/pdf/SUIGIKN/suigiken2-11.pdf>

□お知らせ

○新しい海況図の公開!

四国沖合から房総半島沖合までをカバーする広域の海況図作成システムを開発しました。

新しい海況図は4月1日から正式公開します。

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/kaikyozu/KantoTokai.asp>

従来の伊豆諸島海域もカラー版で閲覧できます。

<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/kaikyozu/KantoTokaiIZ.asp>

<お知らせ> メルマガが本になりました。

ご愛読ありがとうございます。

メルマガNo.237([リンク](#))でもお知らせしましたが、足掛け6年、400編を超える当メルマガの中から、三浦半島の海とおさかなに関する記事65編を選びすぎり、1冊の本にしました。

三浦半島の主な書店においてありますので、是非一度お手にとってみてください。

『三浦半島のおさかな雑学』

東宣出版 四六版 140ページ 定価1,050円(税込)

並製本 カラーカバー 本文単色

(企画) 神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター

(編集) 神奈川県水産技術センター

■水技Cメールマガジン(毎週金曜日発行)

■メルマガの配信の変更、解除、ご意見やお問い合わせはこちらの[メルマガお問い合わせフォーム](#)からお願いいたします。

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会

住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話：046(882)2311

[メルマガTOPへ](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガ240

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.240 2008-04-04

-- Fish-mag >°)))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.240 2008-04-04

~~~~~

## □研究員コラム

○所長就任にあたって (水産技術センター所長 長谷川 保)

○あなご学うんちく(7) (資源環境部 清水 詢道)

○所長就任にあたって

メルマガをいつもご利用いただきありがとうございます。

この4月から水産技術センターの所長に就任いたしました長谷川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今週は、寒さから一転、うらかな日が続き、当センターのある城ヶ島の桜も、数は少ないですが満開となっています。皆様の地域はいかがでしょう。

当センターでは、「海や川がよりきれいに」、「魚などを豊かに」、「皆様においしい魚を安定して提供できるように」、そして「生産を支える漁業も元気になるように」試験研究を進めています。

そのために、言葉がかたくなりますが、海などの環境や海況、水産資源、栽培漁業、定置網等の漁具・漁法、利用加工、アコ等の増殖などの調査研究、さらに漁業調査船による海洋・資源調査、漁業無線等を通じた漁業関係情報の発信など様々な部門の担当があり、それぞれに難しい課題はありますが、目標に向かって頑張っています。

今後とも、各研究員が日頃の仕事の中で感じたことなど、このメルマガを通じてお伝えできればと考えておりますので、引き続き愛読いただきますようよろしくお願いいたします。

○あなご学うんちく(7)

マアナゴの葉形仔魚は早ければ11月頃から、主には2月から3月に神奈川県の沿岸に来遊してきます。東京湾の入り口で葉形仔魚を採集して、どのくらい来遊してくるのかを把握できれば、翌年のアナゴの漁況予測につながるはずです。

そこで2002年から、相模湾の「しらす船曳網船」をお願いして東京湾の内側と外側に2箇所ずつの調査点を設けて調査を続けています。葉形仔魚の調査をする時期は、相模湾ではしらす漁業の禁漁期なのでお願いしやすいことと、しらす船曳網が葉形仔魚採集道具としてもっとも効率的ということによります。

葉形仔魚は、はるかかなたの謎の産卵場で生まれてから、太平洋側には黒潮によって、日本海側では対馬暖流によって、沿岸各地に輸送される、と考えられています。東京湾でも、黒潮系の暖かい水の流入に伴って来遊する機会が多いとみられますが、黒潮系の暖水と東京湾の水では相当な水温差があり、その温度差をどうやって乗り越えるのか、まだ決定的な答えはありません。

2002年から2006年までの5年間で21回調査を実施し、全長7.53cm-13.76cmの葉形仔魚を約2500個体採集しました。東京湾の内側で採集された方が外側で採集されたものより全長は大きく、体重・比重も大きい傾向があります。

葉形仔魚は東京湾の内側に入ってから、おそらく豊富に存在する尾虫類のハウスを活発に食べて、変態を開始します。変態は、外見的には肛門が頭の方向に移動するのでよくわかります。

変態の程度を正確に把握するには、全筋節数と肛門が何番目の筋節にあるかの比を計算して肛門の前進の度合いを判断しますが、肛門前長(頭から肛門までの長さ)と全長の比を計算することによってわかります。

これまで採集された中でもっとも変態が進んだ状態の葉形仔魚は、肛門全長/全長=0.448でした。変態が完了したマアナゴでは、肛門全長は全長のほぼ40%なので、この葉形仔魚の変態は相当進んでいた、といえます。

これまでの調査から、2月の葉形仔魚来遊量が漁況予測に使えるかもしれない、ということが見えてきました。これからのデータの蓄積とその解析が楽しみです。

- 
- 水技Cメールマガジン（毎週金曜日発行）
  - メルマガの配信の変更、解除、ご意見やお問い合わせはこちらの[メルマガお問い合わせフォーム](#)からお願いいたします。

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会  
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子  
電話：046(882)2311

---

[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。



# 神奈川県水産技術センター メールマガ241

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.241 2008-04-11

-- Fish-mag >° )))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.241 2008-04-11

~~~~~

□研究員コラム

○幼稚園のサザエ放流 (栽培技術部 照井 方舟)

○ナゾノブツタイ (資源環境部 清水 顕太郎)

○幼稚園のサザエ放流

一昨年、漁師さんのお孫さんが通っているという縁で、ある漁協で幼稚園生にサザエの放流体験をさせることになり、私にもお声掛けがありました。

体験を通して子供たちに、海や生き物に関心をもってもらうことは大変重要で是非やるべきだと、日頃から思っていますので、二つ返事で引き受けました。水技Cに見学に来る小学生には話をしたことはありますが、幼稚園生は初めてです。

短く、簡単に、飽きさせず、なおかつ海や生物、自然環境に興味を持ってもらえるよう心がけ、話をしました。(うまくいったかは、判りませんが…)

岸壁から「大きくなあれ!」と声を掛けながら放流しました。子供たちは大喜び。後日、記念に壁飾りを作っていただき、幼稚園の先生が持ってきてくれました。

昨年もまた声を掛けていただき、放流を行いました(この年も、後日、壁飾りを作って届けて頂きました)。放流した時、子どもたちから「去年のサザエはどうなっちゃったのかな?」という声があがりました。

そこで、後日その近くで、アワビの潜水調査を行った後に、時間とポンベの残圧に余裕がありましたので、サザエを見に行くことにしました。潜ってみると、居ました、居ました。岩の隙間にサザエがびっしり。放流したばかりの小さなサザエと前年放流した大きくなったサザエが予想以上にたくさんいます。

大きなサザエはみなサイズがそろっており、殻頂部も白く、前年放流したものに間違いありません。この場所は他に放流もしておらず、漁獲もしていない場所なので、非常に判りやすい結果が出ました。私は嬉しくなって、写真をたくさん撮り、幼稚園に送りました。(リンク「[調査報告](#)」)

その後、幼稚園でサザエの放流をテーマにした巨大な共同制作を行い、市内の作品展に出展するとのご案内を頂きました。行ってみてビックリ。高さ2メートルを越す大作、サザエもたくさん居ました。さらに私が送った写真まで展示してあり感激でした。(写真「[共同制作](#)」大きすぎて正面から撮れませんでした)

このように放流を一過性のイベントで終わらせず、壁飾りや、共同制作を通じ、子供たちの関心を持続させ、楽しい思い出として残してくれる先生方に敬服です。

今年もサザエの放流、絶対呼んでくださいね!!

○ナゾノブツタイ

先月(3月)のある朝、始業前に技術センターの前の堤防を歩いていて、妙なものを見つけました。

それは、ぱっと見はミズクラゲのように見えました・・・しかし、すぐおかしいことに気づきました。ミズクラゲに見られる中心の模様がないことと、ミズクラゲにしては、異様に大きいことです。直径40cmほどはあるでしょうか。私が見たことがある最大のミズクラゲの、どうみてもふた回り以上大きいのです。でも、色や質感、水に漂っている様子はミズクラゲにそっくりなのです。

「でっかいクラゲかな？」と思い、さっそく網を持ってきてすくってみました。かなりな大きさがあるので、結構重いです。「網で持ち上げたら砕けちゃうかな・・・」と思いつつ思い切って持ち上げてみると、その塊は砕けもせずバケツに収まったのです。

その外見とは異なり、かなり丈夫で粘着性がありました。よく見ると、中に細かいツブツブが無数にあります。何かの卵塊のようです。「イカ類の卵塊かも知れない」と一緒にいた臼井さん。

そのまま、オープンラボに持ってきて、この手の話に詳しい職員・・・ということで栽培技術部の工藤さんに見てもらいました。塊の一部を採って顕微鏡で見たところ、イカではなく魚の卵でした。卵の中に稚魚の姿が見てとれます。工藤さんは、図鑑を持ってきて、何の卵か調べてくれました。卵塊の形状や大きさ、発見時期などから「キアンコウ」の卵塊ではないかということでした。

卵塊はしばらく水槽に入れて様子を見ることにしました。期待を込めてしばらく見守りたいと思います。うまく発生が進めば稚魚が孵化するでしょう。そうしたら、何の卵だったかご報告できるかもしれません。楽しみ・楽しみ・・・

[卵塊の写真を掲載しました\(2008/04/21\)](#)

-
- 水技Cメールマガジン（毎週金曜日発行）
 - メルマガの配信の変更、解除、ご意見やお問い合わせはこちらの[メルマガお問い合わせフォーム](#)からお願いいたします。

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子
電話：046(882)2311

[メルマガTOPへ](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガジン241-2

幼稚園のサザエ放流



共同制作（大きすぎて正面から撮れませんでした）

[記事に戻る](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガジン241-3

ナゾノブツタイ-その後

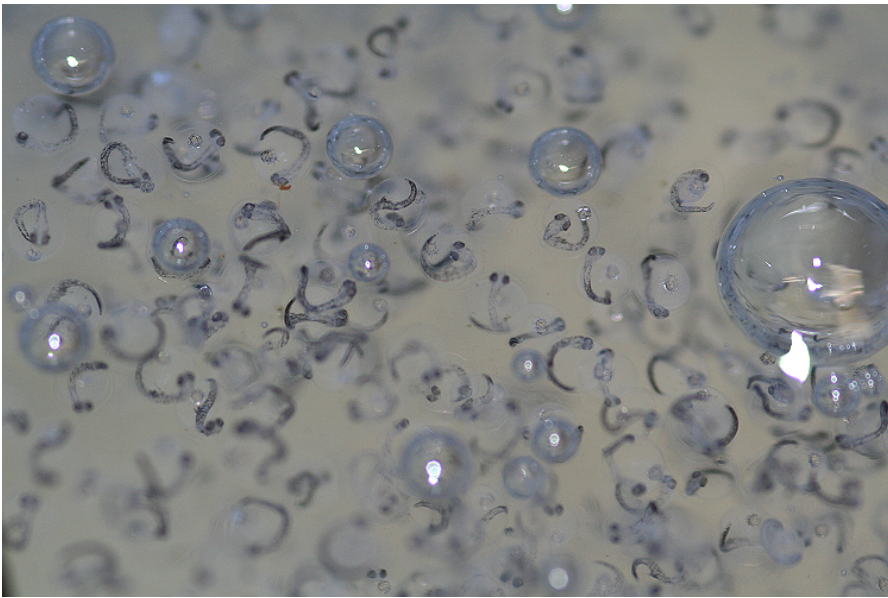
メールマガジン発行時には掲載しませんでした。 「見てみたい」というご意見がありましたので、その後の経過も含めて掲載しました。



この写真は記事の翌日、同じ場所で撮影したものです。わかりにくくて恐縮ですが、画面中央の海藻の左側に卵塊が浮かんでいます。



拡大してみました。中央の白いものが卵塊です。



卵塊を拡大してみました。卵の中に仔魚が見えます。こちらは採取直後ではなく、少し時間が経ったものです。

その後、仔魚が孵化しました。ワムシ・アルテミア等を与えたのですがあまり食わず、残念ながら全滅してしまいました。仔魚の写真は撮り損なってしまったのでありません。ご了承下さい。

仔魚の形態から「ナゾノブツタイ」はどうかやキアンコウではないようです。資料もないことから、今のところ正体は不明です。残念・・・

[記事に戻る](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

神奈川県水産技術センター メールマガ242

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.242 2008-04-18

-- Fish-mag >°)))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.242 2008-04-18

~~~~~

## □研究員コラム

○近所の雑木林との惜別 (栽培技術部 工藤 孝浩)

○2008年4月8日の低気圧による定置網被害の状況 (相模湾試験場 石戸谷 博範)

-----

## ○近所の雑木林との惜別

私は仕事をしている平日はもちろん、休日にも海の自然観察などの環境活動をしているので、まさに「海漬け」の毎日です。その反動か、時として無性に森に行きたくなる衝動に駆られることがあります。気ままに木々の中を散策し、小さな花を愛でたいと心が騒ぎだすのです。

特に、三浦半島の山が濃淡さまざま新緑に彩られるこの時期はいけません。スミレやランが、私を呼ぶのです。しかし、現実には厳しく、この10年近くは日帰りの山歩きすらしていません。たまに時間が空いたとしても、疲れ切っていて山に出かけるだけの気力・体力が残っていないのです。

それでも、精神の安定を失わなかったのは、自宅から徒歩15分ほどにある小さな雑木林で、スミレやランを見たいという欲求が満たされていたからです。その雑木林は、横浜駅からわずか2kmの住宅に囲まれた斜面にあります。コナラを主体に、イヌシデや花木のコブシやヤマザクラなどが混じる、手入れが行き届いた明るくて気持ちよい林です。

ここの他にも、徒歩圏内に雑木林は数ヶ所あるのですが、いずれもアズマネザサが生い茂って立ち入ることすら困難です。この雑木林の地主さんは、よほどマメな方なのでしょう。毎年きれいに下草刈りを施し、木も定期的に伐採しているので、良好な萌芽更新がなされています。

手入れが行き届いた雑木林は、都会の真ん中にあっても生物多様性が高く、とんでもない植物が見つかります。ここでは、シュンランに始まり、エビネ、キンラン、ギンラン、ササバギンランといった、かつて多摩丘陵の雑木林を彩っていた里山のランたちが、早春から初夏まで人知れず咲き継がれているのです。

都市近郊の里山では、ランの盗掘が深刻な問題となっていますが、ここでは盗掘はないようです。こんな所に貴重な花があるなんて、ほとんどの人が気づいていないのでしょうか。

私が日常生活圏に見いだした奇跡のオアシスは、塩まみれの心身を30年にわたって癒してくれましたが、それももうすぐ終わろうとしています。先日、シュンランを訪ねた私の目に飛び込んできたのは、白い工事看板でした。ここに斜面マンションが建つというのです。目の前が真っ暗になりました。長い間当たり前に身近に存在していたものが、こうも突然に失われようとは思ってもみませんでした。

「あれほど丁寧な手入れを続けてこられた地主さんに、よほどの事情が生じたのに違いない」と自分に言い聞かせても、情けない事になかなか現実を受け入れられません。この先いつまで立ち入れるかは分かりませんが、残されたわずかな日々の中で、できるだけ濃密な雑木林との時間をつくって、思い切り別れを惜しんでみたいと思います。

## [写真はここから](#)

-----

## ○2008年4月8日の低気圧による定置網被害の状況

相模湾試験場では、定置網を急潮や波浪から守る研究を進めていますが、10日程前の4月8日に、低気圧が相模湾の沖合を通過した際に、湾西部の定置網漁場中心に漁具被害がありました。ここでは、その時の定置網漁場周辺における気象や海の状況についてお話しします。

2008年4月8日の低気圧は、2008年4月7-8日にかけて、九州から関東の南岸を通過し、西湘地区の定置網に破網等の被害をもたらしました。被災されました漁業者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この低気圧は、4月7日15:00には、鹿児島県大隈半島の南東沖200kmの海上にあり、1004hPaの勢力で、時速30kmで東北東に進みました。8日15:00には、房総半島の南約300kmの海上に至り、気圧は984 hPaまで降下しました。この間、気象庁の最大風速記録では、小田原では北風8m、辻堂では同じく11mとなっていますが、沿岸各地先での体感では、その倍程度の北寄りの強風と感じられていました。

小田原市江之浦漁港では、西側防波堤を越波、真鶴港でも前面の防波堤を越波し、最大波高も目視では5mを越えていたものと見られます。

この低気圧通過時を含む前後6日間の小田原市江之浦沖観測点水深5-45mの流れの記録を図に示します。低気圧が関東の南に接近しつつあった4月8日早朝から表層流(5-10m)が早くなり、1-1.4ノットに達しました。これは急潮と言われる海の中の早い流れです。20m以深では、0.6ノット以下の比較的穏やかな流速となっていました。

今回の定置網被害は、箱網等の水面付近での破網や垣網の側張りへの絡みであり、表層の急潮と高波が同時に作用した結果、発生したものと考えられます。

相模湾における台風通過等による定置網漁具被害は、高波による浅海部(垣網留め)の損傷、登網等のボタン綱切断、関東の沖を通過する台風の後急潮が特筆されていました。また、昨年(2007年)の台風0709号のような直撃型台風では、高波と同時に吹く東風(相模湾奥部の海岸に平行)の強風に伴う急潮が加わり、定置網等に極めて大きな被害を与えることが分かっています。

更に、今回のような沖を通る低気圧では、強い北風と同時に発生する表層流の急潮と高波により、網の破れや絡みが引き起こされることが新たに分かって来ました。今後は波浪と同時に起こる急潮への対策が重要な課題であると思います。

[写真はここから](#)

- 
- 水技Cメールマガジン(毎週金曜日発行)
  - メルマガの配信の変更、解除、ご意見やお問い合わせはこちらの[メルマガお問い合わせフォーム](#)からお願いいたします。

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会  
住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子  
電話：046(882)2311

---

[メルマガTOPへ](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン242-1

近所の雑木林との惜別



写真1：雑木林の入口に工事看板が立つ（2008年3月29日横浜市神奈川区）



写真2：気高く咲き誇るシュンラン（同上）



写真3：間もなく花茎が伸びるエビネ（同上）

[記事に戻る](#)



## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガジン242-2

2008年4月8日の低気圧による定置網被害の状況

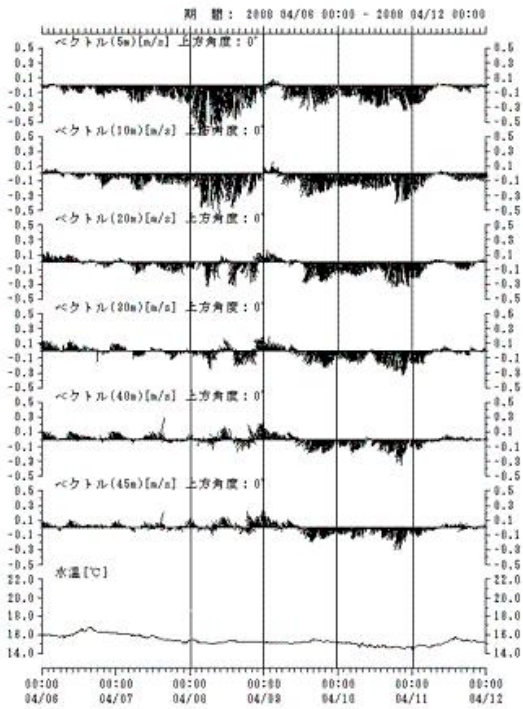


図 江之浦沖観測点における流れの各水深における記録

[記事に戻る](#)

## 神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。

# 神奈川県水産技術センター メールマガ243

神奈川県水産技術センターメールマガ VOL.243 2008-04-25

-- Fish-mag >° )))< -----

/KN/ 神奈川県水産技術センターメールマガジン VOL.243 2008-04-25

~~~~~

□研究員コラム

○増水は要注意！その2（内水面試験場 原 日出夫）

○秋谷沿岸漁業研究会の紹介（企画経営部 池田 文雄）

○増水は要注意！その2

前回、河川水を利用している養殖場では増水時に「エドメ」により酸欠を防ぐという話をしました。今回は、また別の増水時の話です。通常、養殖場では取水口に金網やスリットなどを設け、養殖池に落ち葉などの流下物が入ることを防いでいます。

このため、定期的に取り水口の掃除をしています。特に、秋は落ち葉で詰まりやすくなるので、掃除が頻繁に行われます。場合によっては、夜中も落ち葉掃除をすることがあります。

しかし、台風などの増水時は落ち葉だけでなく、大きな木の枝やゴミなどが流れ、これらが取水口に詰まります。水も凄い勢いで流れ込むので、掃除とはいえ大変危険な作業となります。

さらに、ひどくなると土砂が流れ込みます。こうなると、もうお手上げです。土砂は流れに乗って取水口を通過し、養殖池を埋めていきます。

台風一過、水が引いた養殖池は、トラックで持ち込まれたような大量の土砂が・・・文字どおり、「自然に」運ばれてきた土砂ですが、これを取り除くことは「自然に」とはいきません。養殖業者の方から、最近、ひどい増水や濁水が多くなったという話を聞きます。

山の保水力が落ちたのか、雨の降り方が不安定になったのか分かりませんが、養殖業者の苦労が増えたのは明らかです。

○秋谷沿岸漁業研究会の紹介

秋谷沿岸漁業研究会は、横須賀市大楠漁業協同組合秋谷支所の漁業者が、漁業の活性化を図ることを目的に平成4年11月26日に会員12名で結成した会です。現在の会員数は14名です。

会員は1945年（昭和20年）1月1日以降に生まれた漁業者で、尚且つ、地域内の漁業の発展と活性化に賛同しているもの。本会は、会長、副会長、会計を中心に運営しております。主な活動は

(1) 秋谷夕市の開催（会員が自分で獲った新鮮な魚介類を消費者に提供する。）この夕市は毎年5月の第4土曜日午後4時から横須賀市秋谷の久留和漁港の荷裁き所で研究会員が主体となり、開催の準備から販売までを行います。

当日は、会員以外の秋谷支所の漁業者も参加し自分で獲った魚介類を販売し、漁業者が研究会に積極的に協力しているのが特徴です。また、漁業者等が作っている農産物、花なども同時に販売し、訪れる消費者が喜んでいました。

(2) アワビ中間育成試験（研究会員と秋谷支所の漁業者が協力して実施している。）毎年実施しているアワビ中間育成試験に研究会が主になり、そこに秋谷支所の漁業者が協力し、試験は筏で養殖籠を吊るす方法で行う。使用するアワビは（財）神奈川県栽培漁業協会が育てた25mmサイズのものを使用している。

試験の期間は、11月から翌年3月ごろの5ヶ月間、会員と漁業者が輪番を組み給餌、管理及び籠掃除を行い丁寧に養殖し育てます。試験終了後は、平均殻長45mm以上に成長したアワビをタコ籠等に入れ海底に沈めて、秋谷地先数ヶ所に放流します。

(3) 先進地視察（会員の資質の向上と会員相互の情報交換を図る。）今後の研究会活動をしていくために先進地視察を実施している。最近では、

(1)千葉県富津市にある千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所

(2)横浜市中区にある竹内化成株式会社

に視察し、魚介類の中間育成試験方法や籠等を使用した養殖等を視察、また、竹内化成では漁船の簡単な修理、塗装（特にFRPの塗装、修理の仕方）等を学んだ。 今後は、みづき漁に使用する道具等を製造している工場等の視察を考えている。

(4) その他（他地区、異業種の研究会、青年部等と情報交換を行う。） 漁協が実施する各種（アワビ、サザエ、ヒラメ等）種苗放流（地区内の幼稚園児等を放流体験に招いたりして住民との交流をしている）、イベント等には会員が積極的に協力している。

■水技Cメールマガジン（毎週金曜日発行）

■メルマガの配信の変更、解除、ご意見やお問い合わせはこちらの[メルマガお問い合わせフォーム](#)からお願いいたします。

発行：神奈川県水産技術センター 広報部会

住所：〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話：046(882)2311

[メルマガTOPへ](#)

神奈川県

このページの所管所属は [水産技術センター](#) です。